

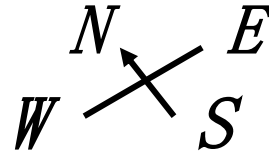
2017年2月1日

第273号

藤沢 エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・大船フラワーセンターの存続を
- ・次世代エネルギーパーク見学
- ・西北部の大型開発 ・宮地さんおめでとう
- ・気象情報ジェット気流にまつわる話8

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

楽しいな県立フラワーセンター大船植物園

冬の季節なのでパンジーが目についたが、他には殆ど花らしい花は咲いていない。奥の方の梅の花は三分咲きで、幼児の団体が広場で遊びまわっているがあまり入場者は見られなかった。

藤沢に近いので子どもたちを連れてよく遊びに行った。65歳以上は100円で入れる施設はお年寄りにも人気だ。

園の外れにあるガラス張りのドームは温室、入るとすぐにランの花やブーゲンビリアなど熱帯の花が迎えてくれた。外とは違い暖かく、茂った植物には全て名札が掛けられ、カタカナの植物名ばかり。実のついたバナナはおなじみで房になって成っていた。ヒスイカズラも珍しい、ヒスイ色の花が房になって通路にいくつもたれさがっていた。また、スイレンの各種が色とりどりの花をつけて池に浮かんでいる。外には5つのガラス張りの温室も隣接していた。ドーム前の木は根元から切られて、なくなった。その場所には大木となった熱帯の木があった。

神奈川県立のこの施設は、今年7月から大規模な改修工事に入るため2018年3月まで閉園し改修後は指定管理となり事業者任せられる予定との説明を受けた。

県立ならではの植栽の管理は、専門家の指導で、細かく管理され、珍しい同種の植物だけでも何種類も育てられ、楽しめるばかりか、発見もして感動するものだ。季節ごとの特別展示も丹精込めてその時期に合わせて管理している。

一般には知られていないが、少し離れた関谷には苗の管理やちょうど見ごろになるまでの花の管理、ユリの培養、研究や育て方の工夫を日々行っている1ha程の敷地に温室など施設がある。

今の時期は温室で珍しい食虫植物のモウセンゴケ、ハエトリソウその他何種類もが管理されていた。職員も4～5人がいて温室や畑(苗ポットの置き場)などがあり、周りは雑木林の自然豊かな場所にある。このような施設があってこそ広いフラワーセンターが維持されるのだと納得した。しかしこの施設も閉鎖となる予定だ。

低額な入園料で近くて楽しめる場所の1つは大船フラワーセンターだ。子どもにとっても大人にとっても植物に関心を持ち観察することはまさに野外教育の場である。規模を縮小せず県直営での存続を望む。(日比 遥)



シモバシラ (シソ科 学名: *Keiskea japonica*)
寒い冬に現れる珍しいもので木の根元に霜のように白いものが現れる

県立フラワーセンター大船植物園を これまで通りの植物園での存続を

昭和37年7月16日に農業試験場として花卉園芸の振興と観賞植物の収集、増殖、知識の普及を図るために発足した当園ですが、50余年経過した現在は、緑豊かな植物園になり、木は大きく育ち、池には睡蓮があり、小魚、水棲昆虫等がいて、鳥なども加わった小世界を構成しています。また関谷分室はバックヤードとして本園を支えています。

マンションや住宅、介護施設、保育園に囲まれ自然環境の保存にとって、県の施設ならではの貴重な場所となっています。植物園は社会教育施設に属し、学習の場であり、癒しの場でもあります。

ところがこの度の、環境農政課の提案を見ると、県立フラワーセンター大船植物園条例がその名称から「植物園を削除」する。設置目的から「増殖」を削除、観賞温室を廃止、池を埋め立て玉縄桜広場、築山の拡張などが記載されています。

大船植物園は、収集植物の5,000種など、また先人たちの努力で数多くの大学研究室や世界の植物園と植物の交換を行ってきた経緯もあり温室には熱帯植物が1,300種あるとの事、これがすべて失われることは大きな損失です。余りにも失うものが大きすぎます。「県民に知らされることなく、着々と改悪計画を進める行政は許せません」

県の費用で充実させたこの大船植物園を、リニューアル改修を利用して植物園から温室を無くす、池は埋める、などこれが魅力アップと言う行政の県民の声を無視した改修工事を心配しています。本来、県民の要望を行政に反映させるのが、議会制の基での県会議員の役割であるが、神奈川県はいつの時点から民主的ルールを無視するようになってしまったのでしょうか？

環境農政は作り育てた環境を壊すのでしょうか？

「県立植物園として今のままの機能は残してほしいという要望なのに」

私たち市民運動は42,000余の県民の声(署名)を添えての要望なのに無視され続けられています。まるで民意は間違っていると言わんばかりに…。

(県立フラワーセンター大船植物園の存続を求める会 副代表 佐々木剛行)



関谷分園の温室



大船植物園 温室内のスイレン

宮地さん おめでとう！

1月25日、当会員の宮地俊作さんが生物資源科学博士の学位取得お祝い会を行いました。

藤沢で起こった荏原ダイオキシン流失問題で解決に取り組んだのがきっかけで、日本大学での研究と論文発表には延べ15年に及び、昨年3月に見事、学位取得に至りました

お祝い会ではその経過と論文の内容を映像で発表し、参加者各界からスピーチをいただきました。

エピソードや質問があり、和やかなお祝い会になりました。花束をいくつも照れくさそうに受け取りました。

論文は「炭素・窒素安定同位体分析によるカタクチイワシとマイワシの栄養段階に関する研究」で内容は省略しますが、詳しくは→[Google 検索：カタクチイワシ 安定同位体分析 栄養段階](#)をご覧ください。

日本大学生物資源科学部の分析器の使い方も1から始めた努力と根性はスゴイとしか言いようがない、研究しながらのいろいろな活動もこなしました。

今、地球温暖化防止のため「ふじさわサンエナジー」会社を立ち上げ奮闘中です。藤沢エコネットの誇りです。これからも元氣にご活躍を期待します。

西北部の大型開発について

藤沢の西北部開発である北部 2-3 地区の 275ha の大型区画整理を中心に、その西側の 80ha の健康と文化の森、そして北側の 110ha の新産業の森地区の大型開発は神奈川県総合計画に位置付けられています。

とりわけ湘南台駅と慶応大学と倉見の新幹線新駅や「南のゲート」ツインシティを結ぶ軸は「横浜県央軸の藤沢寒川軸」とよび、「環境共生・海と山の魅力の融合」、「産学公の連携・地域産業活性化」をうたい文句に、相鉄いずみ野線の延伸と、道路では、高倉遠藤線・遠藤宮原線をつなぎ、やがては仮称湘南台寒川線となるものとされています。

この道路に北部 2-3 地区内にいずみ野線の A 駅(イトーヨーカ堂前、地下駅)が、また健康の森内に B 駅(慶応大学前、地上駅)が延伸予定です。

もう一つの新産業の森は、B 駅を結節拠点として、北側は来年度開通予定の東名綾瀬 IC につなぐ企業呼び込み型の「工業団地」計画です。

日本最大の区画整理といわれる北部 2-3 地区は、1992 年に事業費 440 億円、期間 17 年間、2005 年までの認可で開始。その後 2003 年に見直し、事業費 555 億に、期間延長 15 年の 2020 年までとなりました。

2016 年に 2 度目の見直しがされ、事業費 778 億円(一般会計から 223 億円投入)、期間延長をさらに 15 年の 2035 年までに変更されたという経過があります。事業遅れの原因は、① 国庫補助金と保留地処分金収入の減、② 2003 年の見直し時の仮換地変更での混乱と合意形成のおくれと説明されます。

そのお金が周辺土地所有者である大企業の大きな利益に繋がることも問題です。北部 2-3 の減歩率は全体では 15%ですが、いすゞを除くと 23%です。健康の森も新産業の森も現在は市街化調整地区の所が一部市街化地区に編入され大企業には何十億円もの利益が転がり込みます。

そのうえ、これらの大型開発は、小出川や一色川の水害を誘発する要因にもなります。

自然を壊し、農地を削減し、市の財政悪化をもたらす大型開発はやめるべきです。
(柳沢潤次)

【西北部地区見学会を行います】

3月25日(土) 10時 湘南台駅東口集合
車でいきますので、参加希望者は事務局にお申し込み下さい。
～藤沢エコネット主催～

次世代エネルギーパーク バスツアーに参加

昨年 10 月、県の再生可能エネルギー施設見学会に参加しました。海老名駅からバスに乗って、2015 年に運転開始した愛川太陽光発電所を見学、約 8000 枚の太陽電池パネルを張り、最大出力 1896KW、一般家庭約 520 軒分を全部売電しているとの事。周りに生えた草を羊に食べさせていました。他に相模原市にメガソーラーの谷ヶ原太陽光発電所が 2016 年にできました。

次に向かったのが宮ヶ瀬ダム。愛川第 1 第 2 水力発電所があり、大量の水が一気に放水される様子を見学、迫力に圧倒されました。ここは大切な水源池でもあります。

最後に県の発電総合制御所がある城山発電所を見学しました。最大出力 25 万 kw の大型水力揚水式発電所で、50 年前に運転開始しましたが、今は緊急時のみ発電しています。もっと活用してほしいと思いました。

相模川は山中湖・忍野八海を水源とする河川で、山梨県では桂川と呼ばれ、支流の道志川、中津川と合流しています。その水系に 10 水力発電所があり、他に酒匂川水系に 2 発電所、早川水系に 1 つ、合計県には 13 水力発電所と 2 太陽光発電所、最大出力合計約 36 万 kw すべてを城山発電所が監視・制御しています。

水力と太陽光、再生可能な次世代エネルギーを、市民がつくる市民電力も含めて更に増やし、原発のいらぬ神奈川、エネルギーを自給自足する神奈川にと希望が見えるツアーでした。

(青柳節子)



愛川太陽光発電所

ジェット気流発見にまつわる話

(シリーズ8. 風船爆弾の誕生)

日本軍がアメリカ本土を直接爆撃したのは、1942年2月に伊号第17潜水艦がカリフォルニアに潜入してサンタバーバラの製油所を砲撃したのが最初である。この作戦による被害は限定的だったが、アメリカ軍を驚かすには十分であった。しかしその後は、沿岸域に厳しい警戒網が布設されたため成功することはなかった。こうした状況のなかで、第2次世界大戦の末期、1944年11月から1945年4月のごく短期間に、アメリカ本土空襲のために風船爆弾計画が考案された。

アメリカ軍はといえば、1942年の4月、16機のMitchell爆弾を搭載したB25爆撃機が東京を急襲した。この作戦は、戦隊のリーダーであるJames DoolittleにちなんでDoolittle襲撃と呼ばれ、アメリカの戦闘機が日本に現れた最初だった。この日本襲撃は、その後において日本軍に全面的報復を決意させる気運を誘発させた。日本軍は、飛行機、潜水艦に加えて気球に爆弾を搭載することを考え、重要な作戦として風船爆弾作戦が生まれた。

資源が枯渇する条件のもとで、極めて精力的に、しかし和紙製の風船に自動投下装置を繋留した装置による作戦は実行された。

大石が観測した強い西風の実態が、軍部にどの程度理解されていたのだろう。気球の戦争利用の歴史は古いが、第2次世界大戦当時には陸軍登戸研究所（現在は明治大学生田キャンパスの一部）が開発研究の中心だった。（つづく）

林 陽生（NPO シティ・ウォッチ・スクエア理事長）

放射能測定値（市民計測）

(HORIBA Radi) 単位 ($\mu\text{Sv/h}$) 計測日 1/12

六会駅前公園	0.033
公園内多目的広場	0.031
六会 国道の歩道橋の上	0.047
六会市民センター前	0.054

ECONET INFORMATION

映画放射線を浴びたX年後

2月26日（日）14:00-

市民会館第一展示ホール

前売り券 800 円 当日 1000 円

主催 ピースリレーふじさわ

☎0466-34-5843



市民と対峙するメディア

～メディアのあり方を問う～

講師 石川旺（さかえ）さん（上智大学名誉教授）

2月19日（日）14:30～

藤沢市民会館教養室 資料代500円

主催 湘南学習会議・鎌倉逗子学習会議

地球温暖化と私たちの未来

2月18日（土）14:00- 湘南NDビル6f-1会議室

共催 藤沢市地球温暖化推進協議会 藤沢市

▲ふくしまっ子リフレッシュin湘南&こどもの国

今年も春休みの季節がやってきました

3/29～4/2、4泊5日のリフレッシュを行います。

10回目となる今回は、また来ると言って福島に帰

った子どもたちに会えることでしょう。いつもご協力

下さり感謝しておりますが、資金が不足しています。

ご協力をお願い致します。振込先 ゆうちょ銀行

記号 00270-8 番号70820

福島の子どもたちとともに・湘南の会



藤沢エコネットから

◆会員募集＝年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 フジサワエコネット

◆事務局会議 2月7日（火）10:00～

《編集後記》このところ富士山が真っ白い雪をかぶって、毎日見えてきれいだ。夜は星も見えてホッとすることもある。澄んだ空に毎日ジェット機の爆音が響く。激しい轟音にうんざりする毎日だ。米大統領トランプ氏が勝利しすごいことになっている。これからが期待されるが、日米関係に戦闘機はいらないと言ってほしい。今年はゴーオンのなくなる青空になってほしい。（H）